

[アルキテクトン]

www.shikaku.co.jp

# ArchitektON

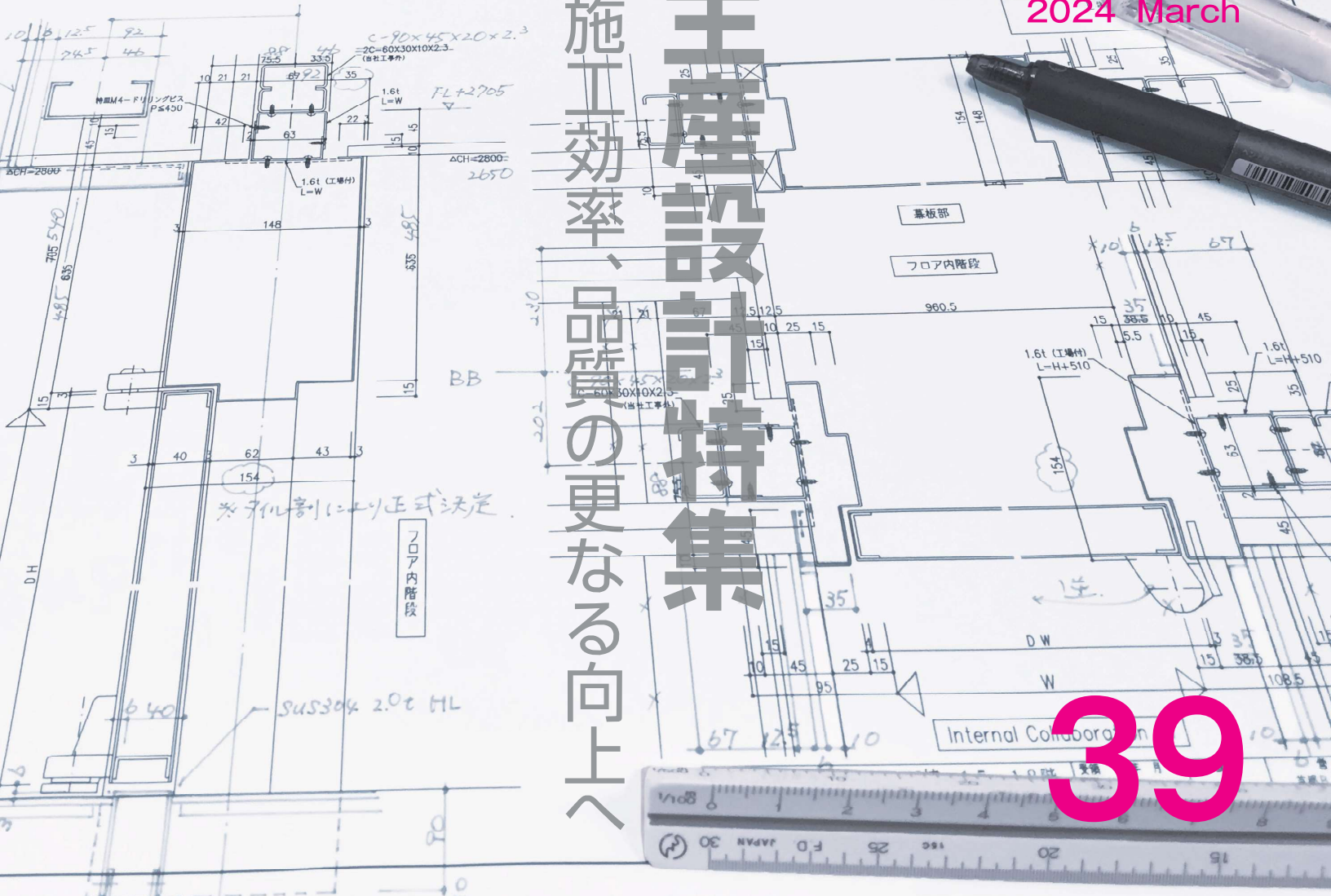
## 首都圏

2024 March

万物に学び知識を深め、創造の世界を広げる

生産設計特集  
施工効率、品質の更なる向上へ

品名	仕様	数量	単位	備注
特殊防大設備		1	個	
コンクリート				
...	...	...	...	...



# 39

## 座談会——実務者と教育者が語る生産設計職の魅力

### 【出席者】

糸井 史恵さん	(株式会社スエヒロ設計事務所 副部長)
小林 勲氏	(株式会社佐沼建築システムデザイン 生産設計部課長)
佐藤 智甲矢氏	(アイテック株式会社 生産設計部)
花澤 瑞城氏	(株式会社 sai 総合企画 横浜支店 係長)
吉村 真裕氏	(株式会社池下設計 関東ブロック 営業課 チーフ)
瀧川 慧氏	(日本工学院専門学校テクノロジーカレッジ建築学科建築設計科専任教員・主任)
村田 佑希氏	(日本工学院八王子専門学校テクノロジーカレッジ建築学科建築設計科専任教員)



### ■生産設計の役割や実務の現状は？

**吉村** 生産設計、いわゆる施工図は、一般的に言うど設計図を基に納まりや寸法などの建築情報を施工者の視点で落とし込んだ図面です。建築現場では、多種多様な職種の工事が行われており、部材の取り合いや納まりを成立させるためには、異なる工種の施工情報を統合し、ゼネコンが施工するための図面が必要になります。施工図作成にあたって、私たちは設計図の納まりに不具合があれば施工者と検討し、設計者・監理者と協議の上、施工可能で品質も確保された図面を作成する役割も担っています。

**小林** 生産設計という言葉が使われ始めた頃は、施工図を作成する担当者は、単純に図面を作成する人を指す図面工という立ち位置から始まったと思います。しかし、現場ではモノ決めされていない状態で工事が始まるため、近年は単に設計情報を施工図に落とし込むのではなく、施工者と一緒にモノ決めと並行して作図するようになり、仕事の範疇が広がってきていると感じます。その分、私たちは、建築に対する知識をより深めていかなければなりません。

**糸井** 私の現場ではフロントローディングを導入しており、今は設計図をつくる設計協力が主となっています。設計者は申請図など行政調整に時間を取られているため、簡易な平面図くらいしかなく、設計図の中の詳細図などを私たちが作成し、図面提供するケースが増えています。これからは、このような設計協力も主要な役割になっていくと思います。



よしむら まさひろ  
**吉村 真裕氏**  
国土館大学工学部卒。経験年数 15 年。携わった主なプロジェクトに勝どき 5 丁目、武田薬品藤沢研究所など。一級建築士。

**花澤** 生産設計業界は、売り手市場で人手が足りない状態です。生産設計の業界に入ってくる人材が多いわけでもなく、育てるのに時間もかかり、皆さんそれぞれの現場で苦労されていると思います。現状では多くの残業を余儀なくされる忙しい現場もあるようですが、今年から働き方改革法に関連して残業規制が入るため、ゼネコンもいろいろと取り組みをされており、私たち生産設計業界としても、法律に沿った仕事の進め方を考える必要があります。

**佐藤** 教育が大変だとおっしゃるように、正直、学校で勉強したことと結構大きなギャップがあります。学校の授業で、納まりについて教えるのは大変でしょうし、それを課題で納まりを正確に図面化するのは、学生にとってはレベル的に高度過ぎると思います。入社して 3 年近くの間、さまざまな物件に関わらせてもらいましたが、物件ごとに全部納まりが違います。ケース・バイ・ケー



くめい ふみえ  
**糸井 史恵さん**  
中央工学校女子建築設計科卒。経験年数 20 年。携わった主なプロジェクトに銀座 SONY CITY、新国立競技場など

スが本当に多いため、テンプレートのような教え方ができないところが施工図の難しさでもあり、やり甲斐でもあります。根気がいる職業ではありますが、施工図に関わっている人たちは丁寧に教えてくれる方が多く、経験を積ませていただいています。

### ■日本工学院での生産設計教育への取り組みは？

**瀧川** 生産設計教育といえるかどうかわかりませんが、日本工学院では従前からの CAD 教育とあわせ BIM 教育に力を入れてきました。また、昨年度から順次カリキュラムを改訂し、2 年生から本格的に BIM を学べる環境を整えているところです。本校では、1 年生の後期から CAD 教育を始めています。私が担当する建築学科は大学と同じ 4 年制で、現時点では 2 年生から CAD を本格的に始め、3、4 年生は BIM が必修です。BIM は、半年かければ誰でも使えるようになります



小林 勸氏

中央高等技術専門学校卒。経験年数 17 年。携わった主なプロジェクトに東京ミッドタウン日比谷、麻布台ヒルズなど

が、その先にどのような BIM 教育を行うかが課題です。今までの BIM を使った設計課題では、構造的合理性や細部を度外視して、奇抜な形状をつくって満足しがちですが、その建築にどのような価値があるのか考えると、ころまで踏み込まないと、本当の BIM 教育にならないと思います。

専門学校としても大学との差別化が不可欠で、建物の仕組みや施工方法に加え、端部やパラペット（外壁と屋根の境界にある立ち上がり部分）などディテールについても学べるような BIM 教育を行おうと、私の授業では、木造の軸組図を BIM で立ち上げさせています。それにより、建築の成り立ちや実際には隠れて見えない内部に対する知識を少しでも持って卒業できるはず。先ほど生産設計の実務で、より多くの建築に対する知識が求められているという話があったように、クリエイティブな部分に縛られず、建築として成り立たせる力を身に付けさせるのが、専門学校の建築教育の姿だと考えます。

**村田** 最初の教え子の佐藤くんを送り出してから 3 年が経ち、その間、何人もの卒業生が学校を訪ねてきて、仕事ぶりについて報告してくれます。その中で生産設計業界に進んだ卒業生は、納まりなど細部に目を向けて作業するのが楽しいと話しています。今日お集まりの 5 社からも毎年、求人票をいただいておりますし、多くの卒業生もお世話になっております。佐藤くんから学校教育と実際の業務とのギャップを指摘されましたが、



花澤 瑞城氏

日本大学生産工学部建築工学科卒。経験年数 8 年。携わった主なプロジェクトに新日比谷 PJ 広場関連施設、熱海後楽園ホテルなど

卒業生が生産設計の現場で一日でも早く活躍できるよう、納まりのさわりだけでも教えておきたいと感じています。

八王子校はキャンパスが広く、ものづくり工房という屋内施設もあり、実寸大の木造平屋建て住宅を建設する実習系の授業を用意しています。仮設図を読み込んだり、簡単にですけれども施工図を描いたりして現場監督役、職人役を決めて住宅建設の現場を再現しています。生産設計を知るきっかけになっていると思います。

**瀧川** 都心型キャンパスの蒲田校は八王子校のような大規模な施設を持っていないため、実際に住宅を建てる場所がありません。それならコンピューターの中で建築を建ててみよう、建設現場の動画を参考にしながら、バーチャル空間の中でリアルな建築を Revit で作成する授業を取り入れました。この方法なら、学生が BIM の高度な活用方法と設計、施工に関連する技術や知識を同時に習得できると考えています。

**村田** 八王子校では今年の 3 年生から、実験的に BIM を使って細かなディテールにも挑戦する授業も始めました。有名建築物の図面を学生全員に配り、BIM ソフトの Revit や ArchiCAD を使って、モデリングさせています。当初は、納まりなどを考えずに、とりあえず建具を付けておしまいなのかと思っていましたが、意外と「ここの引き戸はどうなっているのですか」とか「上吊りなんですか」「戸車を使っているのですか」といった質問も出



佐藤 智甲矢氏

日本工学院八王子専門学校卒。経験年数 3 年。携わった主なプロジェクトに新宿区早稲田鶴巻町、川口本町 4-9 再開発など

てくるので、ディテールに目を向ける学生が出てきたという面で成功だったと手応えを感じていますし、さらにこの教育を発展させていきたいと思っています。

#### ■生産設計を仕事に選んだきっかけは？

**吉村** 大学では意匠設計を中心に学びましたが、正直、こんな柱数やピッチ間隔で実際に建てられるのかなと疑問に思いつつ、図面や模型をつくっていました。大学 3 年次に、池下設計のインターンシップに 2 週間参加した時、0.1mm 単位で、施工に必要な情報を最大限に書き込む生産設計という仕事と出会い、その図面があって初めて建物が建つことを知りました。私はどちらかというと、意匠よりも生産設計の方が性格的に向いていると思い就職活動の選択肢の一つに入れ、最終的に池下設計に入社しました。インターンシップに参加することで、この会社の雰囲気や生産設計の仕事の一端を知ることができ、就職先を選ぶ判断材料になったので、参加して良かったと思います。

**花澤** 私もインターンシップがきっかけでした。建設現場に関わる仕事を探中で、施工管理は 3K のイメージがありました。それに対し、建物を実現するために詳細な図面を描く仕事が魅力的に見え、sai 総合企画のインターンシップに参加し、そのまま面接を受けて、入社しました。

**小林** 当初は意匠設計を志望していましたが、社会人になって最初の現場が施工管理

で、2年目から生産設計を担当しました。施工管理者として、施工図がないと現場が成り立たないとすごく感じていて、改めて施工図に向かい合った時、生産設計の必要性や魅力を強く認識し、それからは生産設計の仕事で頑張っていこうという気持ちになりました。

**桑井** 学生時代に住宅や小規模のマンションの設計を手がけている意匠設計事務所でアルバイトをしていましたが、その事務所の図面が本当に大ざっぱで、設計者がボードの厚さもわからず現場の職人さんと話しているのを聞いてショックを受けました。しっかりと図面を描いている会社を探そうと、会社訪問する中で、スエヒロ設計に入社を決めました。

**佐藤** 入学時にキャリアサポートの方から「これからはBIMの時代」と言われ、専門学校の卒業となるので、大卒者と比べられたときに何か武器を持っていなければという考えもあり、BIMに興味を持っていました。BIMの授業では、多くの学生が創造力豊かな建築を提案しますが、実際に建てるのは無理ではないかと思っていて、もっと細かく現実的な建物の設計にかかわる仕事として生産設計に着目していました。しかし、就職活動のころはコロナ禍に見舞われ、インターンシップは受けられず、企業説明会も対面ではなくWebで行っている状況下で、アイテックに採用していただきました。

#### ■卒業生の生産設計業界への就職状況は？

**村田** 八王子校では年によってばらつきがありますが、概ね卒業生の2、3割が生産設計の会社に就職しています。やはり決め手はインターンだと思います。今年もインターンのお知らせをいただいて、皆さまの会社にもお世話になっています。インターンでさまざまな種類のCADに触れてきた学生に感想を尋ねると、業務体験が楽しかったので生産設計の仕事に就くことを決めましたという声が多く聞かれます。進む道が決まるのは、インターンシップの影響が大きいですね。

**瀧川** 蒲田校も例年は八王子校と同じくらいの割合でしたが、今年は少し傾向が変わっ



たきがわ けい  
瀧川 慧氏 一級建築士

てきました。これまでの求人は大きく、設計部門か現場部門の2択だったのに対し、営業部門だったり設計部門でも設備設計の求人があったりするなど細分化されています。そのため、今年が生産設計会社への内定者は1割弱になっています。4年生の前期で生産設計会社の実務者を非常勤講師に引き、平面詳細図や躯体図を基にモデルをつくる授業を行っていて、その多くの情報が描き込まれた図面に興味を持った学生が、生産設計の道を選んでいくようです。

#### ■生産設計の魅力は

**吉村** 大変な仕事ですが、設計図が納まっていけない箇所を納まるように自分で検討し、提案したものが採用されるとうれしいですね。でも一番の喜びは、皆さんも同じかもしれないですけど、建物が竣工して一般公開される前に中を見せていただいたり、テレビで取り上げられたりした時で、大きな達成感や充実感を覚えます。若手にとっては仕事のモチベーションになり、その後の仕事への意気込みにもつながるでしょう。

**桑井** 吉村さんが言われたように、建物ができあがって多くの人が使っているのを見ることがうれしいし、駅のようなインフラ施設の現場に関わることもあるので、私たちの仕事は社会の一端を支える大切な仕事だと思っています。実務面ではプロジェクトごとに現場が変わり、そうすると設計者も施工者など人も変わり、気持ちの切り替えができます。生産設計の業界は女性が多く、元気に活躍しています。



むらた ゆうき  
村田 佑希氏 一級建築士

**小林** 建築現場を見させていただいた際、不具合を見つけたら施工管理担当に連絡し、状況を説明することがあります。建物は工事が進んでいくにつれて、現場の歴史が積み重なっていきます。その流れを全て知っているのが、おそらく施工図担当者だと思うのです。それで完成した時に、すごく思い出深い建物になりますし、設計者や施工管理者とは違う感覚でしょうが自分が手がけた建物だと大きな達成感が得られます。

**花澤** 施工図担当はニッチな立場で、私たちの会社が表に出ることはほとんどありません。しかし、躯体図や仕上げ図、製作図などの精度をチェックして、とりまとめ、工事を進めるうえで欠かすことができない図面を作成する重要な仕事です。施工図には建物をつくるためのあらゆる情報が凝縮されており、実際に形になったときには充実感に満たされます。

**佐藤** 自分が描いた図面をその通りにつくってくれる職人を見たとき、この人たちを動かしているのは自分なんだと、責任の重さに気付きました。職人が気持ちよく仕事ができる図面を描くことが、施工の品質にもつながると意識して仕事をしています。完成したときの達成感だけでなく、建物が仕上がっていく過程を内部からリアルタイムで見られることに魅力を感じています。

#### ■建築を学ぶ学生へのメッセージを

**小林** 都心部ではさまざまな大規模再開発が計画されています。私たちは、いわば時代の景色をつくる建築プロジェクトに従事して



います。ぜひそのような仕事で力を発揮していただき、新しい時代の景色となる建物を一緒につくっていききたいと思います。

**花澤** 生産設計職にも、図面間の調整やチェックなどさまざまな担当領域があります。入社してからでも自身に合ったプロフェッショナルな方向を見つけることができますので、学生時代に施工図がどのようなものか知っていただき、ぜひ生産設計を仕事に選んで下さい。

**吉村** 学生の間に、インターンシップやアルバイトなどで、建築設計や施工管理、生産設計といった仕事を経験していただき、そこで、自身にふさわしい仕事として生産設計を選んでもらえたら、入社後のギャップが少なく、早くから能力を発揮できると思います。学生のうちに、いろいろ経験してみてください。

**桑井** 学生の頃、知人に「建築の道に進みたい」と言ったら「将来何がしたいか決まっていれば、それだけで人生が勝ったようなものだから、思いっきりやりなさい」と話してくれました。実際、この業界は、若くても年齢に関係なく思いっきり仕事ができるので、意欲のある方はぜひ来てください。

**佐藤** 意匠設計者が0を1にする設計者だとするならば、私たちは1を100にしてあげる設計者だと思います。100にするために専門工事業者やメーカーなど、それぞれの方々の知識の集大成としての施工図を作り上げるところに、魅力ややり甲斐があります。わからないことを恥ずかしがることなく、わからないから教えて下さいと言える素直さや、

学ぼうとする意欲、真面目さがあれば、生涯を託せる仕事です。

**村田** 学生とは、入学して間もない頃に面談します。中には、自分の家を設計したいとか、現場監督になりたいとか、親が建築関係の仕事をしているので後を継ぎたいなど明確なビジョンを持っている学生もいますが、スポットライトが当たる意匠設計にあこがれ、なんとなく設計職に就きたいと話す学生が多いのが実情です。生産設計については、意匠設計でもなく、現場監督でもなく、と、消去法でたどり着いているのかもしれませんが、インターンや会社説明会に参加して、生産設計が自分に向いていると気付かされる人が多いようです。私たち教員も指導する中で、建築に関わる多様な職種の一つとして、生産設計職の仕事内容を紹介し、授業でも生産設計専門の会社と協力をしながら、実務に近い教育を行えば、学生の進路の選択肢が早い段階から広がっていくのではないかと、皆さまの話を聞いて感じました。ぜひ、このような授業を皆さまと一緒にしたい

と思います。

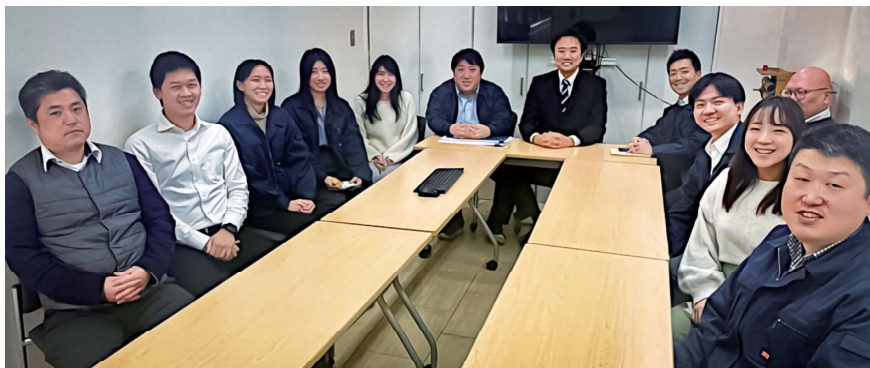
**瀧川** 学生は就職活動をし始めた時は、設計が現場かみたいな2択しかありませんが、就活する中で設計職にも意匠だけでなく設備や構造があり、設計事務所やゼネコンの協力会社として生産設計があると教えています。教員自身も、設計が現場という大きなくくりではなく、実際にはそれぞれの領域で細分化されている業種の魅力を伝えていかなければならないと考えさせられました。また、そのような職種の企業の方に実務的な授業を行ってもらい、学生時代から社会とつながっている教育環境をつくりだすのが、専門学校の理想で、私の夢でもあります。生産設計、施工図とは何かということをお私たちが伝えるのではなく、最前線で生産設計に携わる皆さまが講師となって建築生産の要となっている仕事の重要性や面白さを学生に語っていただき、就活のアドバイスもしていただけるような教育プログラムを設けたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。





## アイテック株式会社

社員みんなが幸せになれる会社へ



### —会社の特色についてお伺いいたします。

**川井** 当社は「社員一人ひとりが技術者となり、プロ集団を目指す」「お客様に満足してもらう仕事をする」という経営目標を掲げ、また、「社員みんなが幸せになれるような会社を作りたい」という思いを社員全員で共有しながら業務に取り組んでおります。社長を含め上司とも風通しが良く、プライベートについても気軽に相談できるといった点から、いわば家族のような雰囲気を持つ会社となっております。

事業については、生産設計・施工図を含む幅広い図面作成業務を行っております。他に

も実施設計図、仮設計画図、BIM、申請業務などもおこない、建築施工において欠かせない作図業務をおこなっております。特に、当社の実施設計図は生産設計の要素を取り入れ、そのまま施工図として使用できる高い精度を持ち、設計者や施工者のフロントローディングに活用していただいております。

### —建設業界では、働き方改革の実現が大きな課題とされております。

**川井** ご指摘のとおり、当社でも10年以上も前から働きやすい環境づくりを積極的に推進してまいりました。そして2011年4月には足立区からワーク・ライフ・バランス推

進企業として認定をいただきました。当社では子育て世代の社員が多数活躍している状況の中で、時短勤務制度の導入など、育児と仕事が両立できるよう対応しております。また、2024年問題と称される残業時間の上限規制に関しても、現場スタッフが忙しい場合本社スタッフが適切なフォローを行うなど、働き方改革を確実に実施するためのサポート体制に努めております。

**石沢** 入社5年目で、2022年度に1年間の産休・育児休業を取得しました。2023年4月に復帰し、育児前と同じ生産設計・施工図作成の業務を担当しています。1年間ブランクがあったため、復帰直後は仕事の進め方などを再確認するなど業務感を取り戻す必要がありましたが、上司先輩方に図面の精度に問題ないかチェックしていただき、業務に取り組んでおります。また子供が急に体調を崩した時などは在宅勤務制度を利用するなどして、業務に支障なく取り組んでおります。

### —今後の抱負は。

**石沢** 生産設計・施工図は奥が深くまだまだ



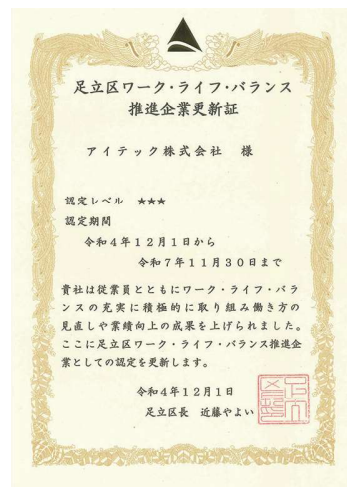
かわい じゅんいち  
生産設計部係長 川井 淳一氏  
一級建築士、一級建築施工管理技士

日本工学院専門学校卒。入社21年目。携わった主な業務にしがわ水族館あざらし館、玉川高島屋S・C、関東マツダ碑文谷店など



いしざわ ゆき  
生産設計部 石沢 由貴さん

日本工業大学卒。入社5年目。携わった主な業務に小石川5丁目マンション計画、坂下総合病院なごみ、MURASAKI PENGUIN PROJECT TOTSUKAなど



足立区ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定証

だ実力不足を感じております。これからもっと経験を積み知識を増やし、一人の技術者として会社に貢献できるよう成長し精進していきたいです。また、家庭を持ったことでなかなか時間的余裕は少なくなりましたが、知識を増やすという点で資格取得にも挑戦していきたいと考えています。

**川井** 図面と一言で言っても、使用する立場で図面の要求内容は異なります。設計者に対しては、原設計（デザイン・使い勝手等）を損なわないように配慮し、現場であればVE（バリューエンジニアリング）やCD（コストダウン）を意識した納まりを考えた図面を、また職人さんの方々には、部材間の距離・建材の無駄のない割付等、作業を考慮した図面を提供していきたいと思っております。今後も長年の経験を生かし、お施主様・設計者・施工者・職人さんの皆さまの要求にお応えできる作図を心掛け、さらなる生産設計・施工図の価値向上に取り組んでいきたいと考えております。



BIM建築モデル



BIM仮設計画モデル

## BIM活用で新たな付加価値提供



代表取締役社長 **木村 雄一氏**  
一級建築士、行政書士、宅地建物取引士



生産設計部 **西島 忠利氏**

日本工業大学卒。入社9年目。携わった主な業務に駒沢オリンピック公園総合運動場改築工事、日野病院、松山城病院など

ではないかと考えています。

——これからの抱負は。

**木村** 経営目標にもあります「社員一人ひとりが技術者となり、プロ集団を目指す」「お客様に満足してもらおう仕事をする」を理念とし、お客様と当社がwinwinになれるように、一層取り組んでまいりたいと考えております。また、建設業界としてBIM普及が定着しているとは言えない状況ではありますが、国土交通省が進める「建築BIMの将来像と工程表」などからも、今後さまざまな場面でBIMの普及が進むはず。業界のニーズに合わせ、生産設計・施工図や、実施設計、仮設計の部門でもBIM普及・定着を進めていきたいと考えております。私個人としては、BIM普及を目標に半生をかけるつもりです（笑）。

**西島** 自己成長はもちろんのこと、さまざまな業務を担当し、BIMの使い方や生産設計・施工図作成など、より高度な技術を身につけていきたいと思っております。また年齢的にも若手育成が重要な役割であることを自覚し、技術の継承にも努めていきたいと思っております。

——BIMの需要が高まっています。

**木村** 当社では、2010年からBIMに取り組んでまいりました。それまで当社の作図は全て2Dでしたが、日本のBIM元年と言われる2009年当時、生産設計・施工図、仮設計画図の担当を務めておりました私は、BIMが普及していくと考え、以来、BIM活用の技術を磨いてまいりました。現在では経営者としての役割と共に、日々、BIMマネージャーとして、BIM活用の提案、建築モデル、仮設計画モデル、各種詳細モデルなどを作成・指示しております。

**西島** 常駐予定の現場で、BIMの活用について話し合いがあり、木村社長に相談してBIMの操作方法を社内で学び、現在は生産設計・施工図の作成とBIM担当をしております。建物の形状や仕上がりなどのイメージに関して、BIMの方が2D図面と比べて、より具体的にお施主様との意思疎通が図れると感じています。また、鉄骨詳細や配筋モデル、施工ステップモデルは、施工時の配筋などの納まり検討や工事手順の確認に有効であり、打ち合わせの効率化や現場の生産性向上にも役立っております。今後は、現場所長との打ち合わせの上で竣工FMモデルの作成予定です。専門工事業者や建材の種類・メーカーの情報や、各種部材の交換時期など、維持管理や改修に必要な情報を盛り込んだBIMをお施主様にご提供することで、新たな価値などがご提供できるの

アイテック株式会社  
 ■所在地：東京都足立区南花畑2丁目6番8号  
 TKビル 2階  
 ■設立：1991年2月  
 ■資本金：2000万円  
 ■売上高：9億1000万円（2023年11月期）  
 ■従業員数：91名（2023年11月現在）

## 株式会社 池下設計

生産設計をコアに全ての設計サービスを一気通貫で提供



関東ブロックブロック長 花尾 唯良氏

### 生産設計業界の地位向上へ

池下設計は昨年に創業 50 年を迎え、全国に 15 の事業所を展開しています。建築生産設計を主な業務とし、元請設計業務、設備生産設計も行っています。当社の強みは業界随一の組織力で、約 750 人の従業員が在席し平均年齢は 33 歳と若い人材も活躍する会社です。研修制度や資格取得支援制度などを設け、社内全体の技術力向上を図っています。2021 年には杉並区から中野区に移転したのを機に、設備施工図部門を統合し、グループ企業として蒼設備設計が合流しました。2023 年には創建構造設計と池下 BIM 設備も合流一つにまとまりました。設備部門や構造部門を擁する設計事務所は多く存在しますが、ここに建築・設備の生産設計を含めた事務所は数少ないのではないかと思います。生産設計業界のリーディングカンパニーとして業界のさらなる発展を目指すとともに、グループ全体としては設計から生産設計までを一気通貫で手がける「総合設計」を目指しています。

#### 株式会社池下設計

- 所在地: 東京都中野区本町一丁目32番2号  
ハーモニータワー 11階
- 設立: 1973年 10月
- 資本金: 5000万円
- 売上高: 56億 6000万円 (2023年 3月期)
- 従業員数: 748名 (2023年 4月 1日現在)

### 東京本店スタッフが語る生産設計の醍醐味



東京本店長 崎山 純一郎氏

日本工業大学卒。入社 23 年目。携わった主な業務に Think Park Tower (大崎西口開発計画)、恵比寿ガーデンプレイス、丸の内トラストタワーN館など

#### ——入社の際には。

**崎山** 学生時代に当社の建築設計部でアルバイトをしており、指導いただいた社員の方々が優しかったので決めました。

**岡田** 意匠設計に携わることを目標に、ゼネコン設計部や住宅メーカーへの就職活動を展開する中で、大学教授や先輩たちから当社を勧められたのがきっかけとなりました。

**岩本** 大規模建築物の図面を書いてみたい。建物が完成する過程を理解したい。と思い就職活動をする中で施工図を知って、挑戦してみたいと感じました。

**祁答院** 意匠設計に携わりたくて就職活動をする中で、現場を知らないまま設計するのは嫌だと感じました。そんな時、池下設計の会社説明会に参加して、生産設計を知り、設計しつつ現場も知ることができるこの仕事を選びました。

#### ——池下設計の魅力を教えてください。

**岩本** 多くの現場を経験してきた建築のスペシャリストが多い点、男女平等な点です。性別関係なく一人の技術者として認めてくれます。

**祁答院** ゼネコンからの厚い信頼による、現場の豊富さです。シンボルとなるようなブ



東京本店グループ長 岡田 亮平氏

福井工業大学卒。入社 18 年目。携わった主な業務に羽田エアポートガーデン、埼玉草加病院、東京大学伊藤国際学術研究センターなど

プロジェクトに関われるチャンスが多く、家族や友人に誇れるところです。

**崎山** 現場では先輩がフォローしてくれる環境を構築するよう心掛けています。キャリアに合わせた一つ上の業務にチャレンジ出来てスキルアップにもつながっています。

**岡田** 多くの現場で経験を積んだ社員が全国に多数在籍しているところです。私も先輩に教えてもらい今は後輩に伝えています。社内研修など教育制度は充実していると思います。

#### ——生産設計のやりがいは。

**祁答院** 自分の提案が建物に反映される部分です。建物が完成して見に行ったとき、自分の提案が無かったらこうならなかったのだと思ううれしくなります。打ち合わせでの提案の仕方も、生産設計者の腕の見せ所の一つです。

**岡田** 施主や設計者、施工者の意見を取りまとめながら施工図を作成し、協議しながら進めるところにやりがいを感じます。限られた予算の中で施主、設計者の要望にできる限り応えつつ、施工者側の立場もくんで調整する部分が面白いと思います。

**岩本** 生産設計は、意匠、構造、設備、施



いわた はるか  
岩本 葉瑠香さん

入社9年目。携わった主な業務にスターバックス リザーブ ロースタリー 東京、東京ドーム大規模リニューアルなど

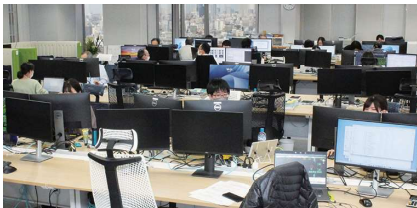
工など建物に関するありとあらゆるものを図面としてまとめます。時間と労力がかかりますが、そこに必ず学びがあるのが楽しいです。

**崎山** 施工図は、設計者、施工者、職人など多くの方たちが施工する際に必要な情報を盛り込んだ重要な図面です。関係各所で協議し情報やヒントを得ながら作成した図面を見て、現場が一体となり建築物を完成へ導けるところにやりがいを感じます。

——皆さんは麻布台ヒルズに携わったメンバーですね。

**崎山** 私は営業として携わり、技術の会社として社員に高さ日本一の建物を経験してもらいたいと思い取り組みました。当社は最盛期31名の技術者が対応し、関東以外で中部・近畿の社員にも協力いただき取り組んだプロジェクトです。

**岩本** 私は着工初期から現場に入っていました。基礎、住宅、外構エリアなどの生産設計に関わりました。多忙でしたが、最後（竣工）までやろうと熱意をもって業務に取り組んでいました。



東京本店社内風景



けどういん たつや  
祁答院 達也氏

日本学院専門学校卒業。入社4年目。携わった主な業務にドコモ代々木第二ビル

**祁答院** 住宅エリアを担当しました。高品質を求められるので苦心しました。打ち合わ

せの場数を踏ませていただき、成長につながりました。

**岡田** 外装を担当していました。デザイナーがイメージする外装デザインと性能を確保することに対する検討は難しかったです。この現場で初めて、気温での伸び縮みや風圧でのたわみや変形することを知り、建物は動くということを意識するようになりました。

**崎山** プロジェクト完了後の従業員アンケートで「携われて良かった」との声がとても大きかったです。そういう声が次のやりがいのあるプロジェクトを取ってくるモチベーションにつながります。

## 新入社員（2023年4月入社）に聞きました



イ ホンジュ  
東京本店 Lee Hongjuさん  
法政大学卒



さしゅう はるのすけ  
東京設備支店 佐生 覇乃介氏  
日本大学卒

### ■池下設計入社の際には。

**Lee** デザインが苦手な一方で、作図には興味があり、中でも施工図に興味を持ちました。いろんな企業を調べる中で研修プログラムがしっかりできている当社を見つけました。

**佐生** 図面を書く仕事に就きたいと考えて就職活動をする中で、建築の心臓ともいえる立ち位置の設備設計に関わりたいと感じ、巡り合ったのが当社でした。

### ■入社前と入社後の印象は。

**Lee** 入社前に説明会で社内を見学して、雰囲気素晴らしかったです。入社してみると、仕事に先輩が気にかけてくれるなど、コミュニケーションが活発でより一層気に入りました。

**佐生** 建築、設備両方を気軽に質問できる環境なので仕事がしやすいと感じました。

### ■自身の今後の目標は。

**Lee** 仕事に関わる十分な知識を得た上で作業を進めていけるようになりたいと考えています。一人前になったら、後輩の質問にもしっかり答えられる人になりたいと思います。

**佐生** 一級建築士試験に合格して、設備と併せ建築も理解できる人材になりたいと思っています。

## sai 株式会社 sai 総合企画

### 生産設計部門、BIM 部門、建築設計部門で幅広いニーズに対応



事業本部本部長 秋山 宗知氏

建設実務専門学校卒。生産設計業務歴 33 年。携わった主な業務に栃木県議会議事堂、中外ライフサイエンスパーク横浜など

**秋山** 初めに、皆さんが sai 総合企画（以下 sai）に入社した理由を教えてください。

**土岐** 大学の就職活動課から勧められたのがきっかけです。ずっと建築に関わって技術を追求、研鑽したい、そんな夢をかなえられる会社だと感じました。

**鶴岡** 通っていた大学の講義を、当時の sai の顧問が担当しており、当社の存在を知りました。就職面談で社員の意気込みと、会社の安定性に惹かれ入社を決めました。

**中島** 大学では文系学科を専攻していました。金融関係の仕事を一志望で就職活動をする中で本当にこの仕事に向いているのか不安になりました。学校から sai の経理の仕事勧められ説明会に参加したところ、当時の社長直々に説明をしていて「すごい会社だ」と感銘を受け、入社を決意しました。

と感銘を受け、入社を決意しました。

**須田** インターンシップで当社に来て、初めて生産設計という職種を知りました。大きい現場に携われるうえ、女性にとっても活躍できそうな会社だと感じました。

**狩野** 就職活動中の説明会で当社を知りました。建築に対して、生産設計での関わり方もあると分かって選びました。

**秋山** sai に入社してみたいかですか。

**須田** 建築現場に出て、学校では学べない、初めて分かることがたくさんありました。

**鶴岡** 知識は大切ですがコミュニケーション能力がより重要だと感じました。

**中島** 採用の業務を担当して、生産設計は建築に欠かせない存在だと実感しました。ただ、世間の認知度は低く、この魅力を学生さ

んに広めていきたい、知ってもらいたいと考えています。

**土岐** 大学で学んだことが通用せず驚きました。また、自分が携わった案件で、自分が描いた生産設計図が実物として建っているのを見て感動しました。

**秋山** 皆さんは生産設計をどう捉えていますか。

**土岐** 材料や納まり、取り合いの指示、機能の再検証と検討、建築の指針となる指示書だといえます。

**須田** 建築物は建築設計図書だけでは建てられません。どうすれば効率的でよい建物が建つのかを考えることが生産設計だと思います。

**鶴岡** 生産設計と建築設計両方の経験から踏まえると、設計という点では建築設計も生産設計も同じですが、建築設計は、マクロな視点で作られた図面であり、生産設計は 1mm 単位で作られた、建物を作るための図面といえます。

**秋山** 鶴岡さんのように生産設計の経験を持つ建築設計者は貴重ですね。いかにして建築設計の形を変えずに、うまく取り付けたり納めたりするかを考えるのが生産設計の面白さです。今後は BIM も生産設計に活用していきますが、BIM 業務を担当する狩野さん



東京支店 次長 土岐 裕太郎氏

芝浦工業大学卒。入社 17 年。携わった主な業務に六本木四丁目マンション、化粧品プラント工場など



設計部係長 鶴岡 桂輔氏

千葉工業大学大学院卒。入社 11 年。携わった主な業務に PM 千鳥ヶ淵内装改修計画、Landport 新座など



管理本部 課長代理 **中島 英人**氏

拓殖大学卒。入社9年。主に採用関連業務を担当



関東支店主任 **須田 沙耶華**さん

日本大学卒。入社6年。携わった主な業務にカンセキスタジアムとちぎ、中外ライフサイエンスパーク横浜など



技術部 **狩野 千夏**さん

宮城県立仙台高等技術専門校卒。入社1年。BIM業務（モデリング、図面化、各図面修正作業等）を担当。

はどう考えていますか。

**狩野** BIMは一目瞭然で納まりが分かるので、積極的に生産設計図作成に取り入れるべきかと思っています。

**秋山** 生産設計業務について何を心がけていますか。

**須田** 誰が見てもわかりやすい生産設計図作成を心がけています。施工中に不備が見つからないよう、施工者側の目線や建物を使用するユーザー目線のことを考えながら作図しています。

**土岐** 設計者、施工者の意図を的確にくみ取って図面に落とし込むようにしています。

**狩野** BIMモデルから二次元の図面に変換する時は、相手からの見やすさを意識しています。BIMは好きな位置の断面を見られるので、様々な立ち位置の方々の要望に応えられると思います。

**鶴岡** 私は、生産設計者が図面にしやすく、できるだけ早く施工に取りかかれるような設

計図作成をモットーにしています。

**土岐** 設計者がそのような考え方だと、とても助かりますが、現実的には厳しい部分があるのではないのでしょうか。

**鶴岡** デベロッパー次第でもあるので、むずかしいところもありますが…。

**須田** 現場では設計者と意見がぶつかることもありますね。

**秋山** そうですね。設計者や施工者、職人さんたちと意見が衝突することもあります。その時にコミュニケーション能力は重要となりますね。生産設計業界が求める人材は、ほかにありますか。

**土岐** 物づくりが好きな人が向いていると思います。

**鶴岡** 向上心があり、分からないことは分からないと正直に言える人が続く仕事だと感じます。

**中島** 人に愛される方、人とうまくやっていける人は、物事を教えてもらう機会に恵まれやすい気がします。

**須田** 率先して人に話しかけられる人は、現場でも円滑な人間関係を築けると思います。現場は男性の割合が圧倒的に多く、女性がいると仕事がしにくいと感じる人もいますので、こちらから積極的に交流を図るようにしています。

**秋山** 会社の将来をどう見ますか。

**土岐** 生産設計管理部とBIM推進部や建築設計部の連携をより一層強化して会社の技術力を高められる会社だと思います。

**中島** 働き方改革によって一人一人の労働時間が減るとともに、多分野に精通したゼネラリストが重宝される時代がやってくると思います。社内的にも、例えば生産設計と建築設計が両方できる人材を輩出する仕組みをつくっていったら組織力が上がるのではないのでしょうか。



代表取締役社長  
**坂本 博昭**氏

同業他社と協力しながら、生産設計の認知度と地位向上を目指していきたいと考えています。また、建築設計部を強化し、建築設計から生産設計まで一貫で対応できるオンリーワン設計事務所を目指し、元請け受注の増加、並びに会社発展を図っていきたいと思っています。



新入社員研修の様子

株式会社 sai 総合企画

- 所在地: 東京都千代田区神田駿河台 1-7-7 白揚第二ビル 3F
- 設立: 2003年7月
- 資本金: 1000万円
- 売上高: 18億700万円(2023年6月期)
- 従業員数: 192名(2023年4月1日現在)



## 株式会社佐沼建築システムデザイン 充実した教育制度で新人をサポート・育成



代表取締役社長 なかむら つとむ 中村 務氏 一級建築士

**中村** 最初に多数の生産設計会社がある中で、当社・佐沼建築システムデザイン（以下・佐沼）を選んだ理由を教えてください。

**王** 専門学生時代の会社説明会がきっかけです。卒業制作でBIMを使うくらい得意だったので、当時からBIMに注力していた佐沼を選びました。

**田邊** 専門学生時代、佐沼でアルバイトをしていました。その時、居心地の良さを感じて入社を決めました。

**白岩** 私は、職業訓練学校で求人を見つけ

て佐沼を知りました。建築の仕事に興味があり、訓練校でCADを学んでいた際に、担当教員が勧めてくれたのが佐沼です。会社説明会に参加した際、とても友好的な雰囲気だったことや佐沼に学校のOBがいたこともあり入社を決めました。

**村元** 専門学校では意匠を学んでいたのですが、デザインのセンスがなく、卒業後しばらくフリーターをしていました。正社員になろうと思って見た求人サイトで佐沼を知り、生産設計に興味を持ちました。

**中村** みなさん、それぞれ色々な理由があって佐沼への入社を決めたのですね。実際に入社してみてもいいかでしたか。

**白岩** 自分のやりたいことを応援してくれる、意思を尊重してくれる会社だと感じました。

**王** とても教育制度が充実していて、月に1度クラス分けされた勉強会に楽しく参加しています。

**白岩** 勉強会のおかげで、業務への理解度が深まるだけではなく、上司や先輩との心の距離が縮まるのも嬉しく思います。

**中村** 他にも会社の魅力などありますか。

**秦** 実施設計、生産設計、BIMのモデリングなどさまざまな業務内容があるので、それぞれを担当する人から幅広い建築知識やスキルを学べます。また設計事務所の協力会社として、大きなプロジェクトや様々な用途の建物に携われるのも大きな魅力の一つです。

**中村** そこはまさに当社最大の魅力ですね。基本・実施設計から生産設計まで一貫して建築図面を作成できることで、より質の高い建物作りに貢献していると考えています。

**秦** 私は一級建築士資格を保有していますが、同時期に一緒に勉強していた中村社長とは、机を並べて勉強したこともありませう(笑)。



建築設計部部長 はた ゆきお 秦 幸生氏 一級建築士

工学院大学建築学科卒。入社18年。携わった主なプロジェクトに豊洲一丁目計画、JR南新宿ビルなど。



生産設計部 たなべ もえ 田邊 萌さん 二級建築士

中央工学校建築設計科卒。入社6年。携わった主なプロジェクトにOtemachiOne、ShibuyaSakura Stageなど。



生産設計部 ワンウェイジエ 王章傑氏

中央工学校建築設計科卒。入社5年。携わった主なプロジェクトに全薬工業南大沢新研究開発センター、品川駅北開発4街区など。

**中村** とても懐かしいですね(笑)。白岩さんは今、二級建築士を目指していますね。

**白岩** 今現在、学科試験は合格しています。建築未経験からの挑戦はととても大変でした。働きながら、予備校に11カ月通いました。通える環境を整えてくれた会社に感謝しています。

**中村** どんな部分が特に大変でしたか。

**白岩** 勉強する時間の作り方です。食べながら勉強したり睡眠時間を減らしたりしました。通勤時間も、スマートフォンのアプリなどを使ったり参考書を読んだりしました。平日でも1日最低6時間、土日は朝7時から夜中0時まで勉強しました。

**中村** 資格の勉強に打ち込める人は仕事においても人一倍努力ができ、より良い結果を残せる人だと思っています。生産設計に建築士の資格は求められませんが、目標に向かって取り組む姿勢は同じですし、知識も無駄にはなりません。これからも会社として、従業



現場(生産設計室)での様子



生産設計部 しらいわ 菜々実 白岩 菜菜実さん

フェリカTA卒。入社4年。携わった主なプロジェクトに麻布台ヒルズC街区、品川駅北開発4街区など。

員の資格取得を応援していきます。

**中村** 当社は新人教育に特に注力していますが、実際にはいかがでしたか。

**村元** 専門学校で建築を2年間学んできたので、ある程度自信を持って研修を受けましたが、思ったよりも分からないことや出来ないことが多くてびっくりしました。ですが、講師の方が一つ一つ丁寧に教えてくれたので、何とか付いていけました。少人数での研修なので、質問すればすぐ答えをもらえますし、復習もしやすい環境なので新人に寄り添ってくれる素晴らしい制度だと感じています。

**中村** なるほど。無事研修を経て、今現場に配属されましたが、実務ではいかがですか。

**村元** 「現場の職人さんはガテン系で怖い印象を持っていましたが、実際には朗らかでニコニコしています。初めての現場で緊張していましたが、皆さん優しく接してくれるので心が軽くなりました。

**中村** 現場に出てみないと分からないことだらけですし、現場で学べることは無限です。当社先輩の下で若い内から現場で学び、色々な方と会話し、やり取りすることで、将来の建設業界を支える優秀な生産設計者に成長して欲しいと願っています。

**中村** 最後に今後の抱負など聞かせてください。

**村元** 生産設計はスピードと正確性が問われる仕事です。これからも失敗を恐れずどん



生産設計部 むらもと ゆか 村元 由佳さん

青山製図専門学校建築設計デザイン科卒。入社1年。携わった主なプロジェクトに赤坂二・六丁目地区開発計画(A工区)など。

どん新しいことに挑戦し、ミスの少ない図面を手掛けていきたいです。

**王** 自分の得意分野を見つけて、生産設計のスペシャリストになりたいと思っています。

**白岩** 現場に出られている方が少しでも「ラク」に「スムーズ」に施工して頂けるよう、今よりもっと知識を深めて、誰が見ても分かりやすい図面を作成して行きたいです。

**秦** 実務ではお客さまに喜んで頂ける実施設計図を一枚でも多く作成していきます。また一人でも多くの技術者を輩出できるよう、教育面でもさらに注力していきます。それによって、佐沼はより一層太く、持続可能な社会に貢献できる会社になると確信しています。



ボーリング大会後の食事会

株式会社佐沼建築システムデザイン  
■所在地: 東京都新宿区西新宿 7-22-37  
ストーク西新宿ビル 307号  
■設立: 2004年7月  
■資本金: 2000万円  
■売上高: 8億900万円(2023年6月期)  
■従業員数: 92名(2024年1月現在)



# SUEHRO

## 株式会社スエヒロ設計事務所

活発なコミュニケーションで社内も現場も明るく



代表取締役 きむら ひろあき 木村 浩之氏

**木村** 施工図を仕事として選んだきっかけを聞かせてください。

**李** 韓国の高校で建築デザインを勉強した後、日本工学院専門学校に留学しました。デザインを勉強する中で、どこに柱や壁をどのように建てるのかなど施工側の知識がないと建築は実現できないと考えるようになり、就活をするにあたって施工図作成という職種があることを知って、当社に入社しました。

**大平** 世の中が不安定なので、手に職をつけたいというのが一番の理由です。父親が建築関係の仕事をしていたことも、建築業界を仕事に選んだきっかけとなりました。細かい作業が好きで、施工図を作成する仕事が自分に合っていると考えました。



よこかわ けんた 課長 横川 健太氏

中央工学校卒。入社13年目。携わった主な業務に東京スクエアガーデン、東急プラザ銀座など

**横川** 建築の道に進んだのは、自分の家を自分で設計したかったというのが理由です。学校ではデザインを中心に学んだのですが、実際に建物がどのようにつくられているのか、そのような知識や技術がないままでは、自分の家を設計することはできないと思い、施工に密接に関わる施工図の仕事を選びました。結果的には、マンションを買ってしまいましたけど(笑)。

**木村** 施工図作成の会社がいくつかある中で、当社を就職先を選んだ理由は。

**李** 生産設計の会社に勤めている専門学校の先輩から建築現場での仕事ぶりの話を聞いて、自分も現場で施工図を描いてみたいと思うようになりました。会社訪問やホームページなどで、当社の研修制度が充実していることを知り、入社させてもらいました。

**大平** 学校に施工図関係の求人票がたくさん来ていて、正直、福利厚生と給料、勤務地を基準に当社を選びました。

**横川** 施工図の会社として3社目です。転職した時は、リーマンショックの影響で建設業界は仕事が減りつつある時期だったのですが、非常に明るい雰囲気、社風に惹かれ、楽しく働けそうと感じたのが当社を選んだ一番の理由です。

**木村** 実際入社してみて、どんな印象を受

けましたか。

**大平** 上下関係が良い意味で希薄で、相談しやすい環境です。研修も充実していて、入社してしばらくは、先輩方が日々入れ替わりマンツーマンで施工図の描き方などを親身に指導してくれました。

**横川** 私が入社したときも、そう感じました。いまは部長、副部長になられている私より上の世代の人も、気軽に声を掛けてくれたりお酒に誘ってくれたりしてもらいました。

**木村** 優しいよね。優しすぎるのかな(笑)。大きな現場では他社の社員と一緒に仕事をしていますが、会社間の違いを感じることはありませんか。

**大平** 他社の施工図員は黙々と仕事をしているので、当社と比べコミュニケーションが苦手な方が多いのかなと思うときがあります。

**木村** 施工図作成の仕事は、細かい図面を描くのが好きだということはもちろんだけど、当社はコミュニケーション力を重視して採用しているので、社内でも現場でも明るい雰囲気、醸成できるのだと自負しています。

**李** 現場に出てみて、実際に施工図を描いたら終わりではなく、図面を見た建設会社の現場担当者からの問いかけにしっかり答え、工事を効率的に施工するための工夫など



おおひら ゆう  
大平 悠さん

青山製図専門学校卒。入社9年目。携わった主な業務に  
青山学院大学中等部校舎、浜松町駅西口開発計画など

も提案するのが仕事だと実感しました。現場業務は1年になります。最初はとても苦労しました。

**木村** 現場では、図面1枚に対してさまざまな人が関わっていることを実感できます。学生では、建設現場ではどんな人が、どのように作業しているのかリアルなことはわからないでしょう。

**横川** 施工図員も建設会社の現場職員も同じですが、わからないことがあれば、情報を取りに聞き回れる人は楽しく仕事しているし、そういう人のところみんなの声が集まります。いまリクルーターも任せられていますが、学生には図面の仕事だからといって内側にこもるのではなく、現場でいろいろな人と話せることが大事だと説明しています。

**木村** これからの業務でどのような展望を持っていますか。

**大平** 中規模の物件を担当してみたいです。中規模だと建物全体を把握できるので、その



社内風景



いへりま  
李 恵林さん

日本工学院専門学校卒。入社3年目。携わった主な業務に  
キングレコード本社ビルなど

経験を生かしチームのリーダーとして、いろいろな物件をまとめていきたいと思います。

**横川** 私たちの仕事は、図面を描くだけでなく正確な図面をもとに現場をコントロールすることだと捉えています。図面には大勢の現場関係者がかかわっていて、施工上の調整や改善などをマネジメントするところに醍醐味があります。建設業界は、2024年4月から働き方改革法に従い残業時間の上限規制が義務化されます。時短を実現するという観点からも、現場の回し方を勉強しなければならないと認識しています。

**李** 私はまだ先輩についている状態で、早く一人で打ち合わせや図面チェックなども任せられるようになりたい。最近、先輩から、一人で打ち合わせに行ってきた、みたい指図されることが増えてきました。

**木村** 近年、人手不足の解消や働き方改革の実現を可能とする生産手段として、建設会社がBIM活用に本腰を入れ始めており、図面の業務でも今後BIMが広がってくると予想されます。仕事にBIMをどう活用していくかイメージを持っていますか。

**李** 専門学校でBIMを学び、その有用性を実感しているので、BIM業務に携わりたいと考えています。

**大平** BIMの図面の方が、納まりや不具合の確認がしやすく、時短にもなるので率先して使っていきたいです。ただ、設計段階からBIMを導入しないと、単に2Dの施工図を3D化するだけでは、あまり意味があ

りません。

**横川** 計画・設計・施工から完成後のメンテナンスまで建物のライフサイクル全体にわたって使えば、効果は高いはずですが。そのためには設計者と私たちがより密になって早期の段階から図面作成業務に関われるような体制が必要です。

**木村** ある物件では、着工8カ月ほど前からBIMを使って、鉄骨躯体や壁などを入れ込んだ3D図面を作成する仕事を行っている事例があります。設備は検討事項が多いので建築物との干渉を確認しながら配管ルートや機器の設置箇所を決めることができます。図面作成のスタートの仕方を変えていけば、実際、時短につながるでしょう。当社としても継続的にBIMを強化していく方針ですが、やはり、施工図に求められるのは正確に作図するオペレーターとしての能力に限らず、ゼネコンをはじめ工事関係者との図面のやりとりや課題の洗い出し、課題解決などについて、しっかり話し合い、現場をまとめあげるコミュニケーション力です。会社が持続的に成長していくため、BIM活用に長けた人材に加え、コミュニケーション力の高い人材の確保に取り組んでいきます。



忘年会の様子

株式会社スエヒコ設計事務所  
■所在地: 東京都豊島区西池袋 3-30-4  
K & Hビル 6F  
■設立: 1979年1月  
■資本金: 1000万円  
■売上高: 4億2000万円(2023年9月期)  
■従業員数: 59名(2023年9月現在)

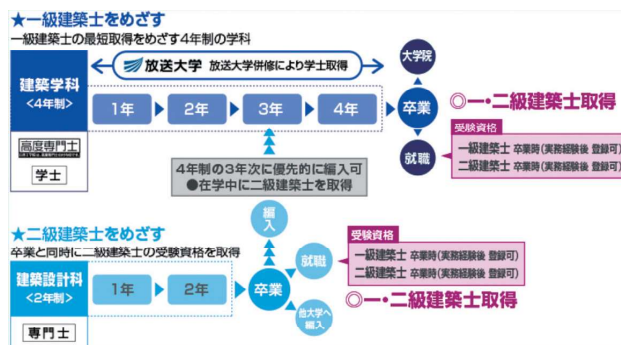
## 『若きつくりびと』を育む日本工学院

日本工学院は、東京芝浦電機（現東芝）の技術者だった片柳鴻（かたやなぎ・こう、1920-2019）により、終戦間もない1947（昭和22）年、絵画と洋裁の専門学校として東京都大田区女塚3丁目（現西蒲田5丁目）に創設された。同校は、NHKがテレビ放送を開始した1953年、当時のテレビ技術開発の最先端で活躍していた技術者を講師に招いて日本テレビ技術学校を設立し、工学分野に進出。カラーテレビ本放送に先駆け、優秀な映像技術者を輩出してきた。

その後、さまざまな分野での技術の進歩にあわせ、学科を拡大。1976年、新たに設けられた専修学校制度に基づく許可を受け、校名を「日本工学院専門学校」に改称した。日本工学院八王子専門学校（八王子校）を、蒲田校の姉妹校として1987年東京都八王子市に開校した。

現在、蒲田校と八王子校に6カレッジ34学科99専門コースを設置し、日本最大級の総合専門学校に発展。創立以来、「若きつくりびと」の育成を目標に掲げ、常に先端の技術・スキルを取り入れたカリキュラムにより、従来の専門学校という既存概念を超えたハイレベルな教育環境を実現している。

カレッジは、建築学科（4年制）と建築設計科（2年制）が属する「テクノロジーカレッジ」をはじめ「クリエイターズカレッジ」「デザインカレッジ」「ミュージックカレッジ」「ITカレッジ」「スポーツ・医療カレッジ」で構成。文部科学大臣認定の「職業実践専門課程」の建築学科と建築設計科には「建築・インテリア設計」「BIM」「建築構造・設備」「建築施工」の4コースを用意。1学年の定員は建築学科が蒲



自分に最適な学びのスタイルで建築士が目指せる

田校40人、八王子校80人、建築設計科は蒲田校80人、八王子校120人で、進路決定率は100%を誇る。建築設計科を卒業し、他大学に編入学する学生もいるという。建築学科のカリキュラムには放送大学科目が組み込まれており、必要単位を取得すると卒業と同時に教養学の学士の称号が授与される。本校の建築学科の卒業で高度専門士の称号が付与され、大学院に進学する学生もいる。

卒業時には一級建築士の受験資格を取得でき、特に建築学科（4年制）では、すぐ受験ができるように基礎的なところから試験対策までを授業で網羅。卒業後も気軽に相談できる体制が確立されている。

## Interview 学科間のコラボレーションによる教育を推進

日本工学院専門学校  
日本工学院八王子専門学校

校長 山野 だいせい 大星氏



——日本工学院の教育方針を説明してください。

「専門学校というと、特定の分野に特化し、就職するための資格取得を目的としているようなイメージがありますが、総合専門学校の

本校は、『若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する』をミッションに多様な領域の専門性を融合させた実践的教育を通して、新しいモノやコトなどをつくり出す『若きつくりびと』の育成を目指しています。「理想的な学びは理想的環境にあり」の理念のもと、社会の課題解決を担い、人々に感動を与えられる職業人として『若きつくりびと』を世の中に送り出すのが、本校の目標です」

——建築教育の特色は。

「本校は、既存の建築系専門学校がある中で建築学科・建築設計科を開設しました。他の専門学校や大学と同じ教育を行っているのは、選ばれる学校になるのは難しいでしょうから、差別化が不可欠でした。やはり本校の武器はテクノロジーです。他校に先駆けて3

次元CADを導入し、文部科学省の委託事業を受託しながら新しい技術を活用した建築教育プログラムの構築に取り組みできました。BIMや3Dプリンターについても出始めたころから着目し、他校に先駆けて時代時代の最先端のテクノロジーを使った教育に注力しています」

「最近、学生が八王子キャンパスをデジタル化したバーチャルキャンパスを制作し、本校のホームページにアップしました。バーチャル空間上にキャンパスをBIMソフトで作成し、どこからでも体験できるものを公開しています。また、道半ばですが、単科校の専門学校にはない総合専門学校としての強みを生かし、学科間のコラボレーションによる教育を進めていく方針です。建築とゲーム、映像、アニメ、コンサート、ITなど、他の

建築学科新カリキュラム科目配置図(4年制) [Link: mmo カリキュラム概要](#) 2023.12.09更新

カレッジ・学科と融合した授業も充実させていく計画です。いまは、通常授業とは別にクロッシングテクノロジーという特別授業（通年で60時間）を取り入れ、一例として、ゲーム専門の教員がゲームソフトのプログラミングを教えるような内容もあります。従来の建築の領域に閉じているのではなく、建築を他分野とつなげていけるような人材育成に力を入れ、近いうちに、生成AIを活用した建築の授業も始めたいと考えています。このような授業を行えるのは、幅広い分野の専門家を教員として擁している総合学園の強みです」

——実際に学習意欲を高めるための工夫は。

「海外旅行に例えると、大学教育は自分で行き先を決め、ホテルを予約するなど自由旅行型で、意欲のある学生は最高の旅を自由に楽しむことができます。一方、専門学校は、ホテルも食事も観光も付いたパッケージ型旅行です。全員が基本的な知識を習得したうえで、次から自分で企画し、独自の旅を楽しめるような教育を行います。専門学校の学生の多くは、漠然と建築設計の道に進みたいという思いで入学し、当初は何をどのように勉強したら良いのか分からず、地図を持たずに見知らぬ街を探検するような不安を持っています。いわゆるZ世代の学生は、私の学生時代と異なり最初から自ら学び自ら考え成果を出す、というような教育には慣れていません。そこで本校では、右も左も分からない新入生にとっての「地図」を示すことを目的に、オリジナルのトランプを使った『建築を学ぶためのパターン・ランゲージ』を考案しました。【建築とは何か】(カテゴリー1)、【建

築思考】(カテゴリー2) など9カテゴリー、全81パターンで構成され、それぞれのパターンの概要を54枚のカードにまとめました。青のトランプには5カテゴリー45パターンと学生が不得意な建築設計課題の設計主旨を書くための9パターン、赤トランプには4カテゴリー36パターンと、建築を学ぶ学生に向けた18パターンを収録しています。例えば、青トランプ・ハートA(交差点に立つ)は、これから建築を学ぼうとする学生に対し、技術と芸術を両立させて勉強する心構えを示しています。さらに文科省からの受託事業として、『建築を学ぶためのパターン・ランゲージ』と『バイオクライマティックデザインによる住宅設計のパターン・ランゲージ』を組み合わせた54枚の黒のトランプも作成しました」

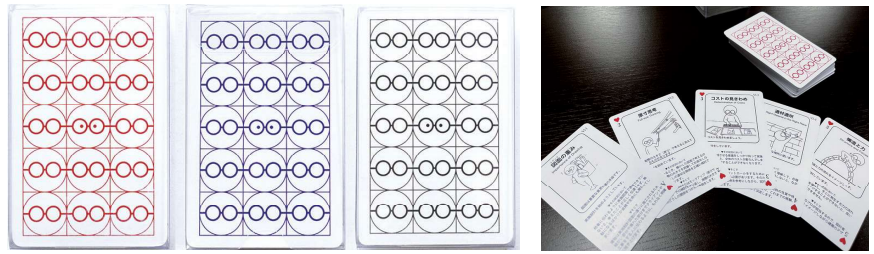
——学生の進路は。

「2年間あるいは4年間学ぶうちに、デザインが好きとか、コツコツ図面を描いている方が向いているとか、コンピューターを使った作業が得意など、個性が分かれてきます。卒業時には、設計事務所、ゼネコン、ハウスメーカー、公務員など建築に関わる多様な業種に就職しています。生産設計の会社に進路を決める学生も数割います。生産設計職は建築が高度化していく中でますます重要性が増しており、一生の仕事にしてほしいと思います」

——2027年に創立80周年を迎えます。

記念事業を計画されていますか。

「もちろん式典や記念シンポジウムの開催を計画しています。ハード面では、新校舎、ファブラボの建設を検討しています。ファブラボは、キャンパス内に分散している3Dプリンターや造作・製作機械を集約し、さまざまなものづくりに取り組める施設として整備します。縮小模型だけでなく実物大建築もつくれるような広さで、建築系の学生にとっては、建築のスケールや建設過程を身をもって体験できる空間になります。在学中に現場や新技術を体験し、ゲーム、アニメ、演劇などを取り入れたプラスαの建築を学べる専門学校を選んでもらえることを期待しています」。



『建築を学ぶためのパターン・ランゲージ\*』トランプ(赤・青・黒)とカード例

\*パターン・ランゲージとは 1970年代、クリストファー・アレグザンダーによって提唱された設計の共通パターンを言語化する手法。

## 日本工学院専門学校（蒲田校）

### 駅前好立地で快適な教育環境を実現する都心型キャンパス

ものづくりのまち・東京都大田区に立地する蒲田校は、JR 蒲田駅から徒歩2分と通学利便性に優れた都心型キャンパスに「テクノロジーカレッジ」「クリエイターズカレッジ」「デザインカレッジ」「ミュージックカレッジ」「ITカレッジ」の5カレッジ22学科を設置。オフィスや商業施設が集積する都内の一等地でありながら十分な敷地を確保し、広々としたセントラルプラザを囲んでシンボルタワーとなる20階建ての3号館をはじめ最先端機能を備えた6棟の校舎が配置されている。セントラルプラザの地下には、最新の音響・放送設備、電動収納観客席を完備した4000人収容可能なアリーナが設けられており、実習授業や卒業作品展のほかコンサート、公式バスケットの試合など学外のイベントにも活用されている。



蒲田キャンパス全景



建築学科/建築設計科 専任教員・主任 瀧川 慧氏

#### ——建築学科の特色を説明して下さい。

「大学と違い専門学校ならではのカラーを打ち出す必要があり、実務的なBIM教育や社会とつながる産学連携の授業に力を入れています。特にBIM教育を強化したことで、従来は入れなかった大手住宅メーカーの設計部やゼネコンのBIM関連部門などに就職する学生もいるなど、良い結果が出ています」

——BIM教育はどのように行われていますか。

「蒲田校の建築学科はBIMは必修科目です。大学なら、おそらくBIMを使って、曲

### 技術を積み上げた先のクリエイティブを目指して

面を多用した奇抜なデザインなど従来の2Dでは難しかった建物を設計しようという発想になるのですが、専門学校の意義は、卒業後に即戦力となる人材を輩出することにあります。そこで、3年生の授業ではBIMによる木造の軸組や、RC造の躯体モデルを作成する授業を行っています。単に2Dの図面を3D化するだけでなく、ディテールや材料についても覚えてほしいという狙いがあります。4年生の授業は、施工図をBIM化するなど、より実務に近い内容です。生産設計部門に就職した際には、新人ながら業務が任せられるような技術を習得させることを目指しています。実際、卒業生からは他の同期社員より断然自分のレベルが高く、学校の授業をしっかり受けてよかった、とうれしい話を聞きます」

——BIMの授業で心がけていることは。

「専任教員は意匠系をはじめ全員が実務経験者であり、私自身もゼネコンの意匠設計の

出身です。実務として木造建築を設計した経験がないので、仕組みや構法がわからない学生の気持ちも理解でき、教科書を見ながら学生と同じ目線で指導することを心がけています。建築学科では2年次に『建築・インテリア設計』『BIM』『建築構造・設備』『建築施工』のうち一つを専攻する期間があり、本年度の3年生には、2年次にBIMを専攻し、高いBIM技術を持った学生が十数人います。彼らには、授業中に他の学生のBIM技術の習得をサポートするような役割を与えています。1人の教員が授業の時間内に個別に指導できる人数は限られており、サポートしてくれる学生がいることはとても助かりますし、普段教わる側の学生が教える側にまわることで、より深い学びを得ることができると実感しています。大学のゼミの指導教員とちがって、担任制の専門学校だからこそ、このように学生と一緒に授業を進められます。学生のほとんどは、設計者を目指して入学し

てきますが、結果的に設計者として就職するのは1割ぐらいで、多くが現場や営業関係の分野に就職します。3Dで複雑なデザインの建築をつくらうという授業は、あくまでも意匠に進むことを目指している学生にしか響きません。これからの時代、現場や営業でも業務のデジタル化が加速していきます。業界が求める人材のニーズに応えるためにも、BIMを使って施工図や建物の仕組みを覚えることは必要でしょう。最近、生産設計の会社から非常勤の講師を招聘し、より、実務に近い教育を実践しています」

——そのほか、日本工学院ならではの教育は。

「週に1度、ゲーム学科や演劇学科など他学科の講師を招いた授業を受ける時間を設けています。例えばゲームの技術を使って建築をつくったり、演劇用小道具のさび加工の技術を体験したりすることで、本校の特徴である総合学園のメリットを生かし、建築だけでなく幅広い知識や技術を身につけてもらうのが目的です。クリエイティブな教育も大事ですが、クリエイティブな発想が技術より先にあるのではなく、技術を積み上げた結果としてクリエイティブな思考や技術が身につくという教育方法が、専門学校のあるべき姿だと思います。本校は『若きつくりびと』の育成を教育目標に掲げており、総合専門学校のメリットを生かし、さまざまな分野と融合した本校“ならではの”技術教育の充実に取り組んでいきます」。

### 生産設計の実務を講義



非常勤講師 岩本 歩氏  
ジェイ・エイ・ティー・シー設計株式会社  
BIM 生産設計本部本部長



BIMの授業の様子

本校では2023年4月から、4年生の学生に週に3時間、生産設計にかかわる実務的なBIMの活用を教えています。生産設計の魅力はわかりにくいと思いますが、納まりなどを諸条件から考え出し現実の空間として形にするところにあります。

ジェイ・エイ・ティー・シー設計は、生産設計を主事業とする会社で、従来は2Dの施工図の作成が中心でしたが、10年ほど前からBIMを使った3D化に舵を切りました。まだ2Dの施工図を使っている現場の方が多いものの、BIMモデルに対するニーズが高

まっているのが事実です。特に大手ゼネコンでは、フロントローディングとしてBIMモデルを使って構造躯体や設備配管との干渉の有無など、事前に施工段階の課題を洗い出し、生産性向上を図る取り組みに注力しています。おそらくそれほど遠くない未来に、BIM活用が当たり前の時代になるでしょう。設計や施工管理、営業など建築業界に就職する学生は必ずBIMに触れる機会が増えてきます。授業で習得したBIMの知識や技術を仕事で生かしてくれることを期待しています。



4年生のBIM作品例

## 建築学科3・4年生に聞きました

### 【4年生】

質問項目 ①就職内定先 ②生産設計職を選んだ理由 ③就職後に挑戦したいこと



あだち ふみや  
安達 郁也さん

①大林デザインパートナーズ  
②3年生のときに初めてBIMに触れて、3Dで立ち上げることで自分が設計したものがより可視化して見られるところに魅力を感じ、BIMを使った仕事に就きたいと考えた。  
③一般の方にもBIMで描いた3Dの図面を見てもらい、建てる前から現実的な建物を想像してもらおうことでその建築の魅力を知ってもらえるよう、BIMの普及に取り組んでいきたい。



さかもと ひろむ  
坂本 拓夢さん

①池下設計  
②施工図をBIMで図面化する授業で、これまで自分が設計してきた図面より素材や細かな寸法など情報の濃さに衝撃を受けた。施工者の立場で意匠設計者のイメージ通りに実現するのが生産設計者の役目で、設計と施工の両方の知識が必要となるため、自分の知識の幅が広がる。  
③4、5歳の頃から高校生までサッカーをしていて、大きなスタジアムのような一大プロジェクトに携わりたい。



さとう やまと  
佐藤 優さん

①TAKシステムズ  
②就活に入って、設計とは単にデザインではなく、施工を考えた現実味を帯びた仕事であることを知り、生産設計に興味を持った。BIMで図面化すると、さまざまな情報とともに空間イメージが立体化されるところが魅力。  
③街や市民に求められるランドマーク的な施設の仕事に、いずれはメンバーの中心として携わっていきたい。

### 【3年生】

質問項目 ①生産設計の魅力 ②生産設計のイメージ ③志望する就職先



きのした ひろあき  
木下 洋海さん

①高校生のとき、パソコンで3面図を作り上げているのを見て、CADやBIMに興味を持った。  
②パソコンさえあればCADも自分でどんどん学んでいけると思うので、誰でも入りやすい世界だというイメージがある。  
③サブコンで設備CADの体験をしてきた。建築CADとは別で、設備CADを使ったことがなく、どう機器や配管を配置していくかパズルみたいで面白さを感じ、その方面の仕事を選んでみようと考えている。



しろかさ ましゆき  
城崎 万壽さん

①授業でARなどを駆使してBIMモデルを作成することで、納まりを確認できるのは画期的。手書きの図面ではなく、データ上で管理していくのは、これから進んでいくと思われるので、生産設計をしっかりと学びたい。  
②まだ普及していないイメージですが、国の方針も少しずつデジタル化技術を取り入れていく方針のようで、BIM活用の道が広がっていくと思う。  
③まだ、やりたい仕事が決まっておらず、いろいろな企業でのインターンを通して、ゆっくり見つけていきたい。



たけうち けん  
竹内 健翔さん

①単純に手書きよりもCADやBIMで設計の方がやりやすさ、楽しさを感じられる。  
②現場の人からデータが送られてきてなんか淡々とこなす機械のような硬いイメージ。  
③業種はBIMオペレーターに絞っている。直近で同業種に入社している先輩も多く、先生からの薦めもあり、興味を持った。

## 日本工学院八王子専門学校（八王子校） 理想的な学習環境を追求する緑豊かな近未来型キャンパス

6カレッジ32学科で構成される日本工学院八王子専門学校は、東京ドーム8個分に相当する381,100㎡の雄大な敷地に最新のコンピュータ・実習機器を備えた実習施設、スポーツ施設、イケアとコラボレーションの学生ラウンジなど建物が有機的に美しく配置されている近未来型キャンパス。東京郊外の緑豊かな環境の中で、他校にはない独自性を打ち出した専門教育が行われている。大空間屋内施設のものづくり工房での実物大木造建築をつくる施工実習や最新のツールを使ったものづくりが、建築教育の特色の一つ。2021年には学生の創作意欲を高める二つの実習スタジオのほか、学生作品展示コーナーや建築関連の書籍を豊富にそろえた書棚も完備した「アーキテクトビルダー・スタジオ (AB Studio)」が完成。次世代の建築教育を見据えた、理想的な学習環境を追求している。



八王子キャンパス全景



建築学科 / 建築設計科 専任教員 村田 佑希氏

### ——担当している科目を教えてください。

「構造に関する座学やBIMの実習などを担当しています。前職は、建築設計事務所で主に住宅の設計を行っていましたが、当時は2D-CADが基本でBIMは使ったことがありませんでした。本校入職後、初めてBIMを学び始め、建物や空間を多角的に捉えることができるのは学生にとって良いツールだと思いました。設計のツールはどんどん進化していますが、一方で工法や文化など変わ

### BIM科目を意匠から構造、設備、施工まで充実させたい

らないものも建築には多くあります。そこにも目を向けてもらえるような授業を心がけています」

#### ——BIM授業の内容は。

「設計課題で学生自身が作成した建物の図面をBIMで3D化し、そのパースをプレゼンシートにまとめるなど意匠分野に限ったBIMの使い方でしたが、本年度から有名建築物の図面を学生に与え、細部までモデリングする授業も取り入れました。ミリ単位の設計に楽しさを見いだしている学生もいます」

#### ——建築系学生の就職活動の状況は。

「求人数の方が学生数を上回っていて、本校限定の求人票もかなりあります。建築設計科、建築学科とも進路決定率は100%で、施工管理職が一番多く、次に生産設計職です。

大学生のように何社も企業訪問して入社試験を受けるのではなく、求人票の中から1、2社に絞って受験し、内定をもらっているというような状況です」

「本校では年に複数回の合同企業説明会を行っています。多岐にわたる業種・業界から多摩地域を中心に活躍している企業まで、毎回多くの企業が参加しています。生産設計という授業自体はありませんが、企業説明会や就職指導を通し生産設計という職種があることを知ることができます。中には、個別に説明会を開いてくれる生産設計の会社もあり、学生は生産設計職を優先的な仕事の一つとして捉えるようになっているのかもしれませんが」

#### ——進学については。

「建築設計科であれば卒業後に本校の建築

学科や他大学に編入学したり、建築学科の卒業後に、大学院に進学したりする学生も年々増えています。建築設計科は、卒業と同時に二級建築士の受験資格が得られ、建築学科3年次へ編入学した学生は、3年次に二級建築士試験を受験し、在学中に資格取得が可能です。年々建築学科3年次へ進学する学生が増えています。二級建築士試験合格率はここ数年、70～80%が平均です。総合資格さんの試験対策講座のWeb授業を科目として取り入れたことが、その理由の一つと考えられます」

「本校は担任制で、学生各人の成績や進路について基本担任が面談します。加えて、キャリアコンサルタントを持った職員が常駐するキャリアサポートセンターが就職や進学に関するキャリアカウンセリング、企業からの就職情報の提供、求人企業の開拓などを行っており、学生一人の適性や将来への希望などを考慮して、適切なアドバイスを送っています」

——今後の授業で新たに挑戦したいことはありますか。

「本校は『若きつくりびと』という言葉大切にしている、学生の夢を技術育成という面から、私たちが後押しし、社会や産業の発展に貢献していくことを教育目標に掲げています。大学の座学系講義やゼミでの研究とは異なる教育カリキュラムが本校の最大の魅力です。実物大の建築や模型をつくり、トライ・アンド・エラーを繰り返す過程で新たな気づきや課題を見だし、学んでいくプロセスを重視しています」

「新カリキュラムに段階的に移行しデジタル系の科目も増やす計画です。今後、建築生産現場ですます普及していくのは必然でしょうから、意匠だけでなく構造・設備・施工といったBIMの活用方法やデジタルツールを使ったものづくりの授業を実践していきたいと考えています。教員が一方向的に教え、学生が受け身になるような授業ではなく、まずは学生が自ら考え、何かを発見し、学んでいくような機会の充実に取り組んでいきます」。



2023年11月29日に行われた設計職ガイダンスの様子。当日は「インテリア設計」「住宅設計」「生産設計」「構造・設備設計」「意匠設計」の各業界について、学生が正しいイメージを持てるよう実務経験のある教員が現実の業務内容や労働環境などを説明した

## 実物大建築物をつくる建築施工の実習は本校の強み



建築学科/建築設計科 専任教員 石井 尚樹氏

——担当している科目を教えてください。

「2年生の専攻科目の『専攻実習（施工）』をメインに、二級建築士の学科試験対策の施工分野、二級建築施工管理技士の学科試験対策など施工に関連する科目全般を担当しています」

——「専攻実習（施工）」はどのような内容ですか。

「実習を通し、現場監督としての管理技術

や生産技術を体得します。広大な八王子キャンパスの一角に、実物大の住宅建設実習が可能な大空間屋内実習場の『ものづくり工房』が設置されていて、この中で実際に1分の1スケールの木造建物をつくる授業となります。図面（施工図）、材料は決まっていますが、概ね4m×4m×5mの規模の木造平屋の建物をどのような順番で、どんな指示をすれば効率的なのか、工具や金物は何を使うのかといったことを学生自ら計画しながら組み立てます」

「私はほとんど口出しせず、授業のたびに現場監督、作業員を担当する学生を入れ替えます。作業開始前に全員で危険予知活動を行い、現場監督は安全管理、品質管理のポイントを確認したうえで図面、材料、道具を見て作業員に指示します。このようなサイクルを繰り返して最終的に建物が完成したら解体し、いわゆる更地の状態に戻します。全体で2カ月間ほどの授業です。専攻実習（施工）は、

花形授業の一つとして学生からも注目されていて、都心の大学や専門学校では難しい1分の1スケールの建物を組み立てるといっかがえのない経験を得られるのは、本校の強みの一つです」

——専攻実習（施工）での構造体の接合方法は。

「基本的にドリフトピン工法を採用しています。専用金具のドリフトピンを木材に嵌め込んで結合する仕組みで、仕口の加工も不要なため、ピンも木材も10年ほど流用が可能です」

——施工図は提供しているとのことですが、学生は施工図の描き方や読み取り方はどう習得しているのですか。

「座学で施工図を作成する授業を行っています。ただ施工図を自分で考えて描くというのではなく、元になる図面をトレースして手順ののちとって、施工図作成の基本を学びます。最初は全然描き方がわからない状態ですが、平面図や断面図の見方、材料の記載の仕方などを徐々に覚え施工実習では現場監督、作業員は施工図通り組み立てられているか、チェックできるまで図面を読み取れるようになっていきます」

——毎年、何人の学生が建築施工実習を専攻していますか。

「定員を30人前後に決めています。昨年度は建築設計科と建築学科に分けたチームにしていますが、本年度は建築設計科、建築学科が混成した4チームを編成しました。チームごとに現場監督役を選び、現場監督同士でそれぞれのチームの役割分担、目標工程、手順などについて話し合い、監督は一切作業に携わず、作業員が自分の監督の指示を受けて動くというルールのもとで、建物をつくりあげました」

——実習はいつごろ実施されますか。

「2年次前期の4月から8月に、1回あたり3時間をかけて行きます。ものづくり工房は屋内施設なので、梅雨時は雨を気にせず作業ができますが、冷房がないため夏場は室温が高くなります。現場監督役の学生にとっ



ものづくり工房で実物大木造建築をつくる施工実習の様子



ては熱中症対策をはじめ衛生管理も重要な役割で、実際の建設現場さながら、休憩や塩分・水分補給の時間を各班でコントロールするよう、指示しています」

——今後の授業に取り入れたい内容は。

「リアルの建設現場の見学のほか、1分の1のスケールでなくてもいいのでRCやS造

などの建築物についても実際に触って体を動かしてつくる機会を増やすのが、私の夢です。ものづくり工房の中に木造、RC造、S造の三つの建物が並んで、それぞれの違いを見ながら、建築士や建築施工管理技士の試験対策にも役立つような授業を展開したいと思っています」。

## 建築学科3年生に聞きました

質問項目 ①生産設計への興味 ②生産設計のイメージ ③今後の進路



うえはら ゆりえさん

①真っ白な図面から自分の描いた線や数値で少しずつ埋まっていくのが楽しい。PC上で3D図面を作成するBIMの授業が好き。  
②建物の仕様などを詳細に描き込むことで、図面1枚でどんな建物なのか想像させる仕事。  
③生産設計会社のインターンに参加して興味がある。将来的に神奈川県で生活したいと考えているため、神奈川県企業も探している。



おおかど かんた 大門 幹太さん

①生産設計会社のインターンで施工図の修正作業をさせていただき、生産設計の実務や必要性を知った。初めて見る細かい図面は衝撃的。作業自体がとても楽しく、そこで興味を持った。  
②施工するときを使う図面だというイメージを持っていた。  
③生産設計をはじめ、CAD・BIMを使用する仕事に就きたい。



たけうち はるか 竹内 颯さん

①デザインされた建物をさらに作り上げていくというイメージ。デザインされたものを完成に近づける最後の「仕上げ」という意味で興味がある。  
②最初は単に施工図を描く仕事だと思っていた。  
③生産設計業務での就職を希望している。インターンに参加した企業に魅力を感じている。



たけした みう 竹下 美羽さん

①図面を描くのが好き。CAD・BIMの授業を通じてそれを追求している。  
②細かい作業が得意なので、詳細な寸法などを書き込んで施工図を作成する仕事におもしろさを感じている。  
③業界としては生産設計の道に進みたいと考えている。ゆくゆくは多くの人の目に触れる大規模建物の設計に携わりたい。

# 2級建築士の次は1級に挑戦!

2級建築士取得後すぐに1級にチャレンジできるメリットを活かそう!

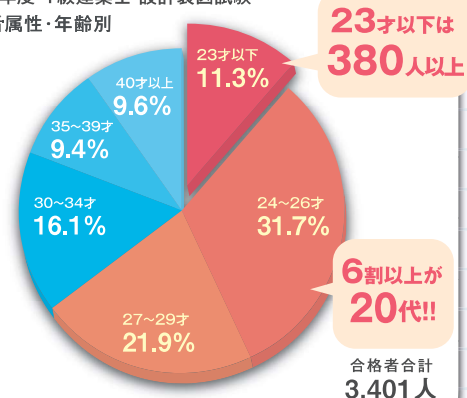


建設業界でも最難関資格である1級建築士だから様々な仕事をこなしながらの資格学習は大変...

時間に余裕のある在学中に資格学習をすすめるのがオススメ! 令和5年度1級建築士設計製図試験では、20代の合格者が合格者全体のおよそ2/3を占めました。このことから早くから試験に挑戦している若年層が多いことがうかがえます。

令和5年度試験では23才以下の方が380人以上も合格しています。

令和5年度 1級建築士 設計製図試験  
合格者属性・年齢別



企業側でも早くから「将来の建築士」になりうる人材を確保する動きが活発化しています!

採用  
担当者の声

## 某ハウスメーカー



当社において、入社初年度での2級建築士試験合格は必須条件と位置付けております。世の中で通用する国家資格を入社初年度に取得し、入社2年目から自信を持って業務に携われるようにと考えております。

## 某ゼネコン



1級建築士の取得は「自分のスキルアップのため」はもとより「会社が社会や地域から信頼されるため」にも非常に大切なことであるため、積極的に取り組んでほしいと考えています。また、資格に関しては、目で見える個人の努力の成果として、昇進・昇格にも大きく影響します。

※建築士の受験資格や免許登録に必要な実務経験要件等については建築技術教育普及センターのホームページに掲載されています。 建築技術教育普及センターホームページ (<https://www.jaeic.or.jp>)

## 学院のすばらしさを身をもって知って 合格者数「日本一」という実績に納得です!

みなさん、こんにちは。  
俳優の田中 道子です。

私は「総合資格学院」の1級建築士講座に通って、  
2022年度1級建築士に無事合格しました。

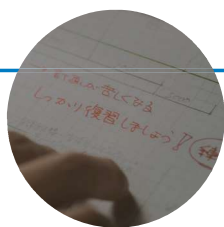
長年の夢を叶えることができ、最高の気分です。

学院スタッフのサポート、充実したカリキュラム、  
そしてオリジナル教材などそのすばらしさを身をもって知って、  
あらためて合格者数「日本一」という実績に納得しています。

『その道のことは、その道のプロに聞く』

建設関連の資格取得はもちろん、  
人材紹介や、法定講習まで、  
「総合資格学院」におまかせください。

受験生のみなさん、がんばってください!



### 田中 道子さん 総合資格学院 イメージキャラクター

1989年8月24日生まれ、静岡県浜松市出身。オスカープロモーション所属。  
ミス・ワールド2013日本代表、世界大会ベスト30に選出。ドラマ「大奥」(CX)、「霊媒探偵・城塚翡翠」「invert城塚翡翠 倒叙集」「Dr.チヨコレート」(NTV/Hulu)、「六本木クラス」(EX)、映画「極主夫道」、「解体キングダム」(NHK総合)、「新・美の巨人たち」(テレビ東京)、「築き人」(BSテレ東)などに出演するほか、「プレバト!!」(MBS/TBS)では水彩画等で才能を発揮するなど多方面で活躍の場を増やしている。多忙を極める中、2022年に最難関国家資格である一級建築士に合格。

# 私の選択は 間違ってた

選んだのは、合格者の50%以上が  
進んだ王道ルートでした。



総合資格学院イメージキャラクター  
令和4年度 一級建築士試験合格  
当学院受講生・俳優  
田中 道子さん

田中道子さん

令和4年度  
一級建築士試験  
総合資格のおかげで  
人生変わった。

1級建築士  
合格実績  
No.1

平成26～令和5年度  
1級建築士 設計製図試験  
全国 **10年間**  
合格者占有率  
全国合格者合計 36,470名中 / 当学院受講生 19,984名

54.8%

令和5年度  
1級建築士 学科・設計製図試験  
全国ストレート  
合格者占有率  
全国ストレート合格者 1,075名中 / 当学院当年度受講生 557名

51.8%

★学科・製図ストレート合格者とは、令和5年度1級建築士学科試験に合格し、令和5年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和5年12月25日現在)



建築学生に  
おススメのコンテンツ

スクールサイト ▶ [www.shikaku.co.jp](http://www.shikaku.co.jp) コーポレートサイト ▶ [www.sogoshikaku.co.jp](http://www.sogoshikaku.co.jp) X ▶ [@shikaku\\_sogo](https://twitter.com/shikaku_sogo) LINE ⇒ [総合資格学院] Instagram ⇒ [sogoshikaku\_official] で検索!

### 開講講座

1級・2級 建築士/建築・土木・管工事施工管理技士/設備・構造設計  
1級建築士/建築設備士/宅建士/賃貸不動産経営管理士/インテリア  
コーディネーター

### 法定講習

監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習

### お問合せ先

【東京本部】TEL:03-3340-5673  
東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3F

新宿校	TEL.03-3340-5671	〒163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3F
池袋校	TEL.03-3982-8211	〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-9-1 セイコーサンシャインXビル4F
上野校	TEL.03-3832-7201	〒110-0005 東京都台東区上野5-23-14 A-RISE御徒町2F
北千住校	TEL.03-5284-3911	〒120-0034 東京都足立区千住3-98 千住ミルティスII番館4F
五反田校	TEL.03-6408-9711	〒141-0022 東京都品川区東五反田1-11-15 電波ビル7F
吉祥寺校	TEL.0422-23-6011	〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-31-11 KSビル2F
立川校	TEL.042-524-7841	〒190-0012 東京都立川市曙町2-10-1 ふどうやビル3F
町田校	TEL.042-724-3061	〒194-0013 東京都町田市原町田6-28-19 フジビル98 3F
横浜校	TEL.045-316-6811	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-17-1 相鉄若崎学園ビル3F

川崎校	TEL.044-850-3411	〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-2-3 ヴェルビュ溝の口2F
藤沢校	TEL.0466-55-2611	〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢484-1 藤沢アンバービル2F
厚木校	TEL.046-297-0511	〒243-0018 神奈川県厚木市中町2-7-11 オーズミタインギングビル2F
さいたま校	TEL.048-642-9811	〒330-0844 埼玉県さいたま市大宮区下町2-16-1 ACROSSビル5F
越谷校	TEL.048-990-6971	〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷1-16-13 日本生命越谷ビル4F
川越校	TEL.049-291-5211	〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町10-16 BOビル1F
船橋校	TEL.047-425-8941	〒273-0005 千葉県船橋市本町5-4-2 森ビル6F
千葉校	TEL.043-302-1711	〒260-0028 千葉県千葉市中央区新町18番地10号 千葉第一生命ビルディング6F
柏校	TEL.04-7168-9111	〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1 柏セントラルプラザ業務棟5F

# Architekton



[表紙]

写真は、スエヒロ設計事務所で社員のデスクを撮影した1枚。生産設計行為の一部である製作図チェックの様子が写っている。生産設計は設計図を基に、関係業者が作成した製作図などの情報を整理し、建物を実際の形にするための施工図としてまとめる作業で、生産設計技術者には建築施工の効率化、品質確保の役割も求められる。近年、BIMを活用した施工図のニーズが高まるなど、生産設計各社の業容が広がっている。

【アルキテクトン】古代ギリシャ語で建築家の意。「始原、原理、首位」を意味する archè と、「職人、工匠」を意味する tekton の合成語。世界最古の建築書「ウイトルーウィス建築書」の訳者である森田慶一は、ギリシャ時代の観念として、建築家とは「諸技術の原理的知識をもち、職人たちの頭に立って制作を指導しうる工匠の術」をもつ者だとしている。また、建築家に必要な知識は、「制作・実技」と「理論」とから生ずるとも述べている。

## アルキテクトンシリーズ バックナンバーのご紹介

バックナンバーをご希望の方は、下記までメールにてお申し込みください。なお、お申し込みの際には下記の必要事項をご記入ください。

### ■必要事項

①メールタイトル:バックナンバー希望 ②希望するナンバー ③住所/氏名/年齢/電話番号 ④e-mailアドレス ⑤学校名(学部・学科・研究室・学年) ⑥希望進路(就職/進学) ⑦進路(内定先/進学先)

※⑥⑦は、該当する何れかをご記入ください。

●お申し込みアドレス:koho@shikaku.co.jp

## Architekton



21号

これからの建築設備



22号

女流建築家が見つめる先



23号

建築の新たな地平を開く



24号

実務と研究の両面から建築の可能性を探る

## Architekton Plus(+)



14号

普通の日々を支える技術—九州—



15号

紐解くことから次代を描く—東京—



16号

ものづくりと感性を磨く—工業高校—



17号

人と暮らしを守る、繋ぐ建築—信越—

## Architekton 首都圏



35号-1

東海大学 建築都市学部開設特集  
「未来」をデザインする



35号-2

東海大学 建築都市学部開設特集  
技術で「社会」をつくる



36号

多彩な学びで未来を創る  
東京工芸大学



37号

受け継がれるアーキテクトマインド  
法政大学

発行

Architekton 首都圏 39号

株式会社 総合資格

〒163-0557

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階

tel. 03-3340-3082

www.shikaku.co.jp

発行人

岸 和子

株式会社総合資格 代表取締役

文・構成

株式会社日刊建設工業新聞社

編集

株式会社日刊建設工業新聞社

株式会社総合資格 東京本部

福岡千晶・田中雅弘・小川一也

印刷

シナノ書籍印刷株式会社

発行日

2024年3月12日

※特記無き写真、図版は設計者および研究室提供

※本書の一部または全部について無断で、複写、複製することは禁じられております。

# Architekton

## 首都圏

2024 March

